

「城を歩く会」 9月定例会＝本佐倉城を訪ねる

平成21-9-11

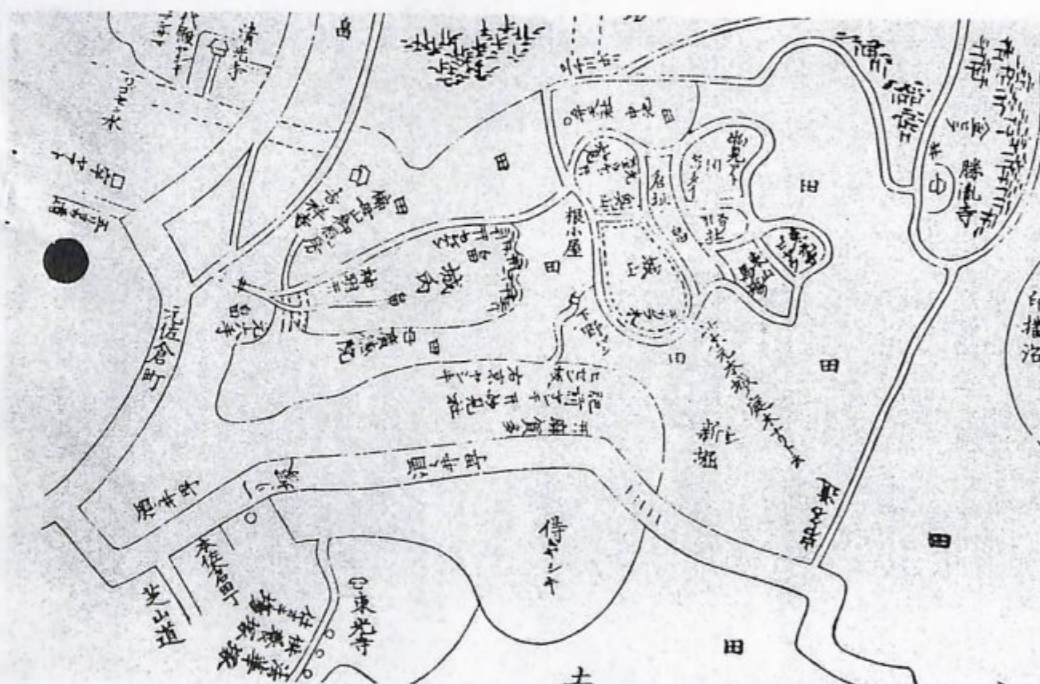
1-2

- ① 国指定史跡・本佐倉城（午前の部＝酒々井町）
↓バス移動
- ② 国指定重要文化財・旧堀田正倫邸庭園（午後の部＝佐倉市）
現地解散＝京成駅、JR駅へは1）の③④に記載

保存状態も良好、知られざる名城

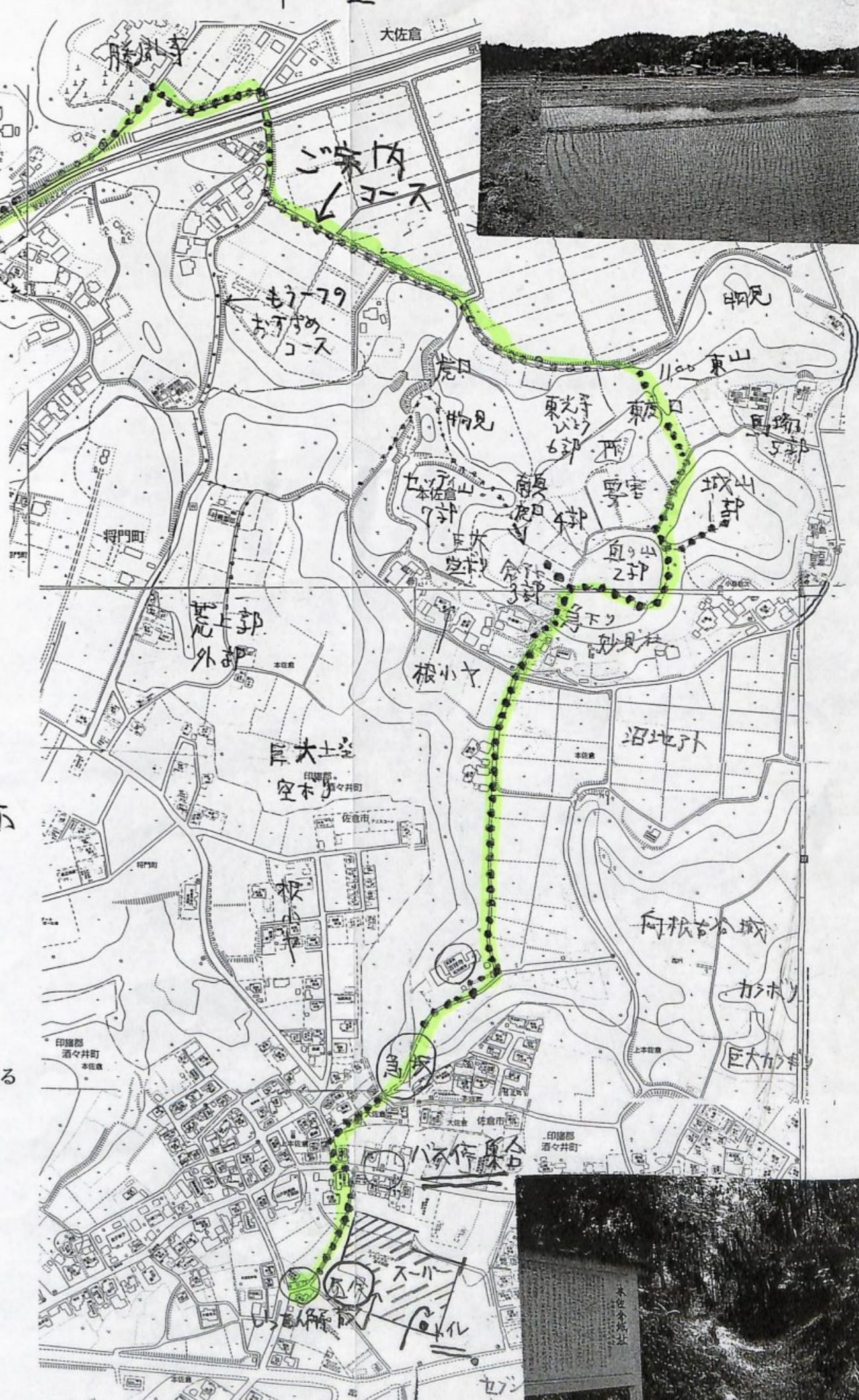
本佐倉城を歩く

山岸弘明



↑本佐倉城主御殿略図

←江戸時代に画かれた本佐倉城旧跡



- 1) 本佐倉城は佐倉城ではない — 誤解されないために
 - ① 本佐倉城と佐倉城、名前は似るが時代も場所も城主も違う。
 - 本佐倉城＝戦国時代小田原北条氏領、千葉宗家居城
佐倉城＝江戸時代の譜代大名居城、後期は堀田11万石
 - ② 佐倉城は佐倉市、本佐倉城は酒々井町でおおよそ10km隔たる
 - ② 午後はバスで佐倉城下へ移動、佐倉厚生園へ
最後の佐倉藩主・堀田正倫（まさとも）が明治に建てた旧大名邸宅、こちらは正真正銘、佐倉藩主の現存建造物。
 - ③ おことわり
 - (1) 本佐倉城にはトイレがありません。必ず大佐倉駅で済ましてください。案内コースは2時間を限度としました。距離と難易度を重視しましたが、見どころはたっぷりあります
 - (2) 会報「店あり」は大型スーパー「トライアル」のこと。食品など商品豊富、でも食堂はありません
 - (3) 下り急坂と上り坂があります。ゆっくり全員で走破します
 - (4) 解散は堀田邸。京成佐倉駅へバス、JR佐倉駅へは徒歩15分（タクシー乗合可）、または京成駅からバスを利用ください

千葉氏と本佐倉城主要年表

享徳3年1454	享徳の乱始まる、千葉氏2派に分裂
" 4年1455	馬加康胤、千葉城を攻略、本宗を滅ぼし千葉宗家を継承
康正2年1456	康胤、東常縁に攻められ敗死 宗家はその子胤持が相続 宗家城地は不詳（諸説）
この間	宗家城地は不詳（諸説）
文明3年ころ	孝胤、本佐倉城を築城
" 11年1479	孝胤、太田道灌と戦い、臼井城を攻められる
" 年間	輔胤、本佐倉城を築城説もある
永正6年1509	勝胤、足利義明に支城の小弓城奪取される
大永ころ	勝胤、北条氏綱、古河公方と結ぶ
天文7年1538	第1次国府台の戦いで義明滅亡
弘治3年1557	親胤、近習に暗殺される
永禄7年1564	第2次国府台の戦いに勝つ
" 9年1566	胤富、上杉謙信に臼井城を攻撃される
天正はじめ	このころ北条氏、東関東一帯を支配
" 13年1585	邦胤、内紛で殺害され、重胤が相続
" 17年1589	秀吉、北条氏に宣戦を布告
" 18年1590	小田原征伐で本佐倉城不戦開城、廃城

下総守護・千葉宗家の本城本佐倉城、その壮大な威容をいまに伝える

午前9部 案内コース

国指定史跡・本佐倉城

2) 源頼朝の鎌倉幕府創建に貢献 — 千葉氏は桓武平氏、下総守護の名門

①本佐倉城=戦国前期の文明3年(1471)ころ千葉介孝胤築城、天正18年(1590)滅亡までの100年10代にわたる千葉家本城。

②千葉氏=桓武平氏良文流。平安時代から戦国時代にかけて下総(千葉県ほか)の豪族。常胤が源頼朝の鎌倉幕府創立に貢献、下総守護に任じられ、代々世襲して千葉介を名乗った。戦国乱世に先立つ享徳3年(1454)の関東動乱で千葉氏は分裂抗争し、宗家胤直を倒した叔父康胤が名跡を継承、本拠を千葉城から本佐倉城に移した。戦国時代は小田原北条氏に与したが、天正18年最後の城主重胤の時、豊臣秀吉小田原攻めで降伏、北条氏とともに滅亡した。

(1)歴代城主=千葉介(以下も)孝胤、輔胤、孝胤、勝胤、昌胤、利胤、親胤、胤富、邦胤、重胤

(2)天正18年4月豊臣秀吉小田原城包囲、5月上総、下総の居城に浅野、木村軍が進攻した。ことごとく支城落城、孤立無縁の小田原城も7月5日氏政、氏照が切腹して開城。

(3)当時、重胤はまだ幼く重臣原氏を後見に兵5千を率いて小田原城に集結、最初の合戦で湯本口、宮城野口に布陣したが大きな戦はなく退いた。本佐倉城は主力を小田原に動員され残りは年寄りと女子供、戦闘体制がとれず不戦開城となった

(4)最後の城主重胤はその後江戸に出て浪人、寛永10年病死して断絶となった

3) 自然地形を区切った連郭式縄張り — 10年がかりの発掘調査でほぼ全貌を解明

①印旛沼に接した湖城、臼井城、師戸城などの支城群を船で連結した。

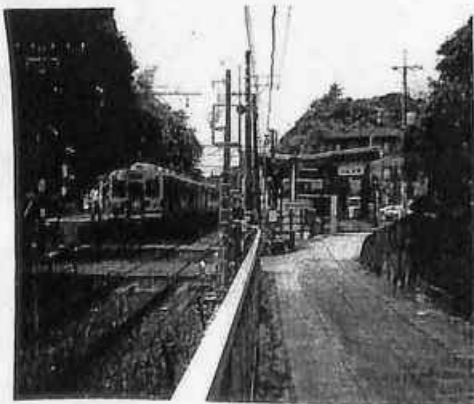
(1)当時印旛沼は利根川や常陸川水脈と繋がり、この水脈の支配や古河公方足利氏、北関東の諸豪族との兵の移動や物資の輸送が容易であったことが選定理由と考えられる

②城地は洪積台地の浸食で複雑に入り組んだ谷津に囲まれた台地上に立地、主郭部は半島状で、自然の地形を空堀で区切って要害とした。三方は印旛沼とその低湿地で、根古谷地区前のたんぼも印旛沼の延長とされる。

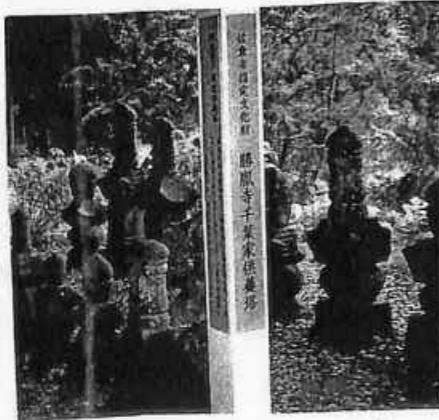
③主郭部分は城山(1郭=本丸相当)、奥山(2郭=2の丸)、倉跡、丸の内(3郭=3の丸)、セッテイ山(7郭)の一画、外郭の荒上郭、向根小屋城などは周辺を取り囲む連郭式縄張りといえなくもない。

④平成19年長かった発掘調査が終了、調査報告書の刊行が待たれる。現地に現地説明会の跡らしい仮説明板が詳しい。

⑤保存状態は良好で、千葉氏宗家の本城としてその壮大な威容を今日に伝えている。

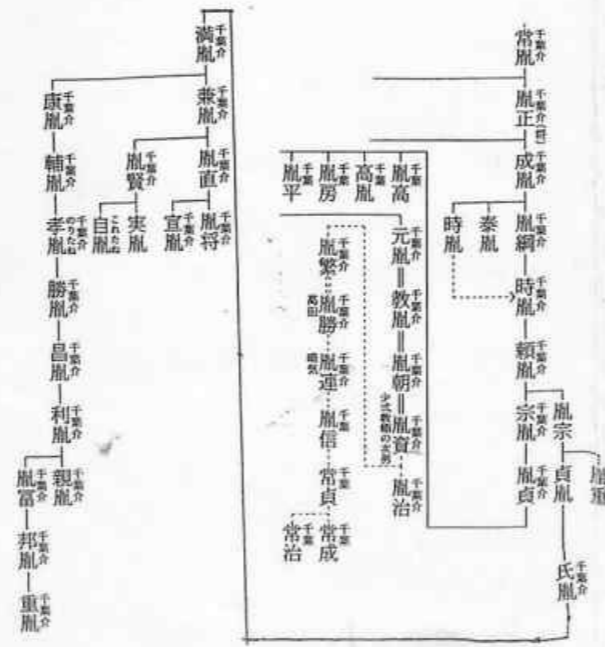


スタート地点の大佐倉駅



勝胤寺千葉氏の墓

千葉氏系図(部分)



4) 京成大佐倉駅に集合、開会行事 — 勝胤寺を横目に本佐倉城をめざす

①快速特急停車駅だが駅舎は古いなかの木造駅。いきなり大自然が目飛び込む。この森に本佐倉城がある。

②京成線左側の台地も外郭、直下の印旛沼軍港で船溜まりも。

③勝胤寺=本佐倉城主千葉介勝胤が創建、同家菩提寺で、江戸後期佐倉堀田家位牌寺、明治維新後いったん廃寺となるが、昭和20年代に再興、勝胤ほかの墓が現存する。

④京成線のガードをくぐる。たんぼの先に見学地の「本佐倉城」の内郭群が広がる。眼前のたんぼはその昔印旛沼、築城当時は低湿地、敵兵も進撃できない。

⑤外郭(荒上郭)と主郭セッテイ山(7郭)物見間の堀底道=虎口

⑥東光寺びょう(廟?)、セッテイ山と倉跡(3郭)間の堀底道=南奥虎口

5) 2つの門と蛇行した通路 — 東山虎口から内郭群へ

①東口虎口散策ガイド=東山虎口は2つの門と蛇行した狭い通路、内升形の長方形の空間によって構成され、非常に厳重に守られているのが分かります。想像して復元するとこのようになります。東山虎口を抜けると左側に東山馬場が広がります。

②元気な人だけ東山虎口上に登る=危険なので十分注意してください。

(1)東山=東西に細長く途中Y字に枝分かれして北側の先端は物見台になっている。背後の城山を守る土塁の役割を果たしている。

(2)虎口と周辺を一望

(3)帯郭

③大手道、東山馬場を遠望。

(1)大手虎口

(2)東山馬場(5郭)

④大手虎口、東山虎口から敵襲に備えた要害(4郭)、盾を構えた守りはテレビセットのようで実感がある。



←本佐倉城物見

東山虎口周囲の空撮



←東光寺びょうの跡



←東山虎口の眺望

6) 堀切で本丸と2の丸を分ける — 大堀切を木橋が繋ぐ

① 4郭虎口散策ガイド=ここは4郭虎口です。現道となっている堀底道を登っていくと、登り切った所に堀跡と、堀跡の先には門跡が見つかりました。写真は発掘当時のもので推測で堀と門を復元しています。

(1)左急崖は城山(本丸)、右は4郭、段ごとが戦場、上から長柄やりでつく
②大堀切散策ガイド=大堀切は城山と奥の山を分ける堀切です。4郭虎口から続く通路は大堀切の手前で左に折れ、高低差2m程のスロープを登ります。登りきった所が平坦面になっていて、木戸跡が見つかりました。

(1)復元された大堀切虎口を登る。かつて門が構え、上部を木橋が渡った。

7) 本丸へ一気に攻め込む — 左折れ坂虎口の本丸虎口

①城山通路散策ガイド=この通路は城山へ登るための唯一の通路です。通路幅は180cm、何度も蛇行して城山虎口へと向かいます。この場所から城山虎口までの高低差は7mあり、その急な勾配は容易に城山へは登らせません。

②城山虎口散策ガイド=城山虎口は左折れの坂虎口の形態をとります。左に直角に曲がる手前に門跡が見つかりました。門の左右には堀が連結し、門を入った目の前は土の壁とその上にはやはり堀が巡っていたことが発掘調査によって分かっています。

③城山門跡散策ガイド=この場所は平成18年度の発掘調査により門跡が見つかりました。この門をくぐるとその先は主殿となります。また、門の手前で通路が2方向に分かれ、一方は奥の山へ渡る木橋(推定)方向へ向かいます。

④奥山木橋散策ガイド=土塁と土塁の線が切れているためここから奥の山へ木橋が架かっていた可能性があります。また土塁の頂部に沿って堀(柵)が見つかり、土塁が切れている所で120cmほど間隔が開いています。ここから橋を渡っていたのでしょうか。

(1)土塁、堀跡、木橋

(2)城山と奥の山が人工的に切り通されていることがよくわかる



4郭と堀の備え



4郭虎口

城山虎口



虎口周辺



大堀切の内側



大堀切



城山

8) 主殿や会所、築山、庭池跡などが発掘された — 城山(本丸)を観察

①城山主殿散策ガイド=城山門跡から主殿までの間は西側に堀を作り、まっすぐに歩けないようにクランクさせています。

主殿、身屋=桁行約19m×梁間約10.8m。付属屋=桁行約9m×梁間約5.3m。
中門=約5.1m×約2.2m、参考写真(主殿、門復元)=青森県根城

(1)主殿は寝殿造りが変化した主殿造りで、後に書院建築へとすすむ。平面間取りの発表はないが中門を配し、車寄せ、式台がみられる。通常主殿の半分が接客、行事儀式の場で、その中心は「九間(ここのま)」になる。この時代、対面所の書院化と、建物内部の装飾がすすんだとされる。城が実戦重視の構えから政略的拠点になりつつあったといえる

②城山(空撮)散策ガイド=城山郭は平成15~19年にかけてほぼ全域を発掘調査しました。主殿跡、会所跡、庭跡(園池、築山)、建物4棟(台所、倉庫、トイレか)、櫓跡2棟(平櫓、井楼櫓)、門跡2棟、堀跡(門連結、土塁上)、通路跡、木橋(推定)参考写真(会所復元)=岐阜県江関氏館跡、出土品
会所=桁行約11.2m×梁間約13.5m、庭の南面しています
園池=長軸約11m、短軸約8m、園池の一部は会所の下に広がっています
築山=長軸約6m、短軸約5m、園池の南側に小さな高まりが今も残っています

(1)戦国期の会所は邸内の客殿をいう

③庭跡散策ガイド=この庭は園池、築山、景石、砂利などで構成されていたと思います。園池跡の範囲は砂が張られていました。現在のところおそらく水は使わない枯山水形式の庭園と考えています。城主は親しい客人とともに会所から庭を眺めながら宴会をしていたのでしょうか。会所の南東に4m×4mの小さな建物があります。やはり庭に面しているため、会所のはなれ、茶室のような建物の可能性があります。

(1)戦国大名たちは「質実剛健」の気風の中に「ワビサビ」という冷え枯れた簡素美を求めた。「枯れ山水」は水を使わずに地形によって山水を表す庭で、座敷から座観した。茶道もこのころ流行した。「わび茶」は教養の場として、同盟や主従関係確立の場として政治、外交の舞台ともなった。優雅な戦国武将たちの生活ぶりが偲ばれる。

④土塁上を一周、城全景を把握する。

(1)平櫓、井楼櫓
(2)急崖、帯郭

城山の表示
→ 主殿



← 会所とはなれはなれ



主殿跡周辺

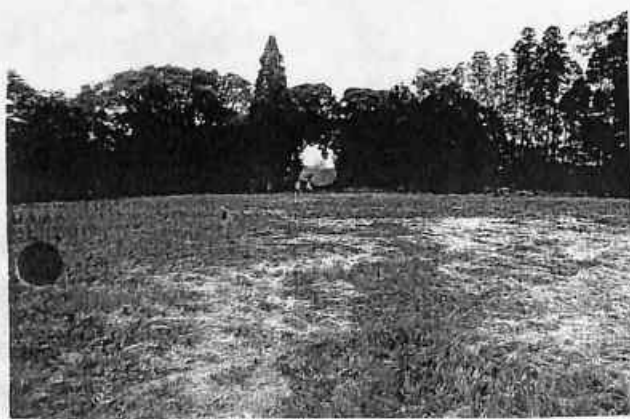


9) 山を平坦にして掘り切る — 郭の作り方を現地で学習

- ①奥の山(2郭)に移動
- ②2郭は妙見社跡とする。先端部の堀切を確認
- ③城山、奥の山、倉跡、セッティ山は元々は1つの山。城造り手順を考える。
 - (1)山を削平する。削った土は押し出し、裾を切り岸して急崖を作る
 - (2)堀切りして空堀と独立した郭を作る。空堀は堀底道で虎口に繋げる
- ④倉跡(3郭) = 焼け米出土と伝わる。焼け米落城伝説は各地に伝わるがほぼすべてがうそ。玄米が年月で炭化したものを見誤っている。
- ⑤セッティ山との堀切、空堀を見る
 - (1)下見会(5人)は野趣に富んだ荒上郭→セッティ山→堀切→倉跡郭コースを楽しんだ
- ⑥最初の難関、急坂。竹のガイドに捕まって転ばないようにゆっくりと下りる。

10) 大型スーパー周辺で昼食 — 徒歩15分、ゆっくり登り坂を歩く

- ①根小屋、たんぼは元印旛沼、築城当時も低湿地で沼地であった。
 - ②向根小屋城 = 本佐倉城の支城。2重の巨大空堀と地形は現存するが本日は通過。
 - ③吉祥寺 = 真言宗の古刹。寺伝は法灯1千余年、大同2年弘法大師開基とする。江戸後期佐倉堀田家祈願寺。現在の本堂は平成15年の再建。
 - ④急坂。ゆっくり登る。登り切ったすぐ先にバス停とスーパーがある。
 - ⑤大型スーパー「トライアル」周辺で昼食
 - ⑥神社境内、青年館前で次回、10月バス一泊旅行申し込み受け付け
 - ⑦バス停集合 = 次のバスは40分後、遅刻しないこと
- 本佐倉バス停13時28分(参考=次は14時08分)京成佐倉行き乗車
バスおよそ10分 = 200円、厚生園前降車



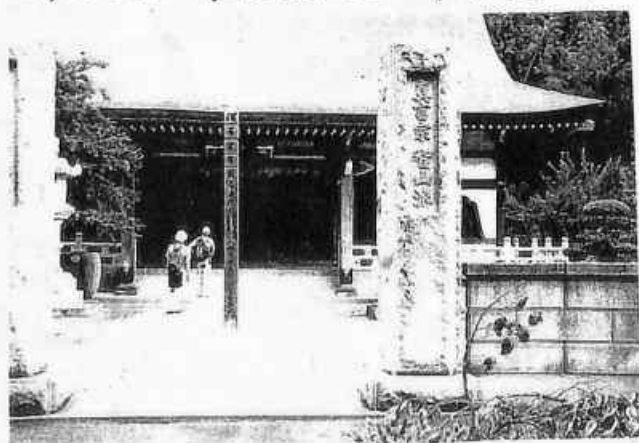
奥の山



倉跡



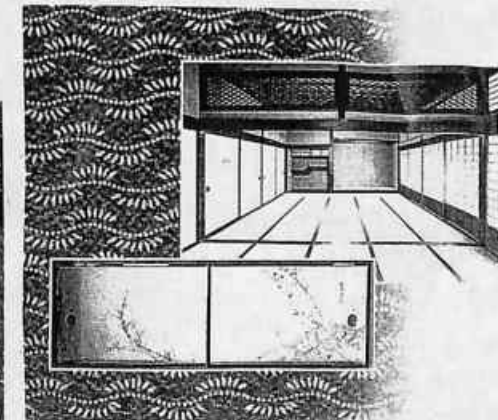
本佐倉城遺跡、左が根小屋、右が向根と城



吉祥寺の
小休憩



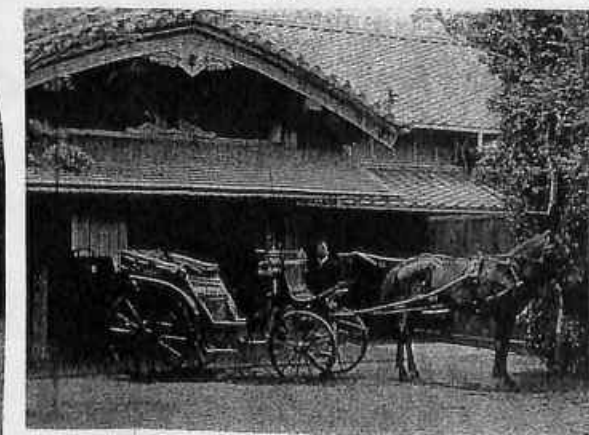
↓堀田町と↑庭園



堀田町への入り口



佐倉順天堂



堀田町の古写真



国指定重要文化財・旧堀田正倫邸庭園

1) ボランティアガイドの説明で旧大名家、明治の建造物を回る — 佐倉堀田邸

- ①堀田家 = 春日局の養子となった堀田正俊は5代将軍綱吉の擁立に尽力して大老となるがイトコに殿中で殺害された。その後山形、福島へ左遷されたが、正亮の時老中で佐倉11万石となり、幕末の正睦も老中首座で活躍した。
- ②最後の佐倉藩主・堀田正倫は明治4年廃藩置県の後しばらく東京に居住したが、明治21年にこの地に邸宅を建築して移り住んだ。庭園は当時屈指の庭師であった伊藤彦右衛門の作庭、芝生を用いた和洋折衷庭園。平成18年、現存する明治時代の上級和風邸宅(旧大名邸、庭園として国の重要文化財に指定された。
- ③団体210円、14時からボランティアガイドをお願いしています。庭園は無料、室内の後自由に見学してください。
- ④15時00分玄関前集合、解散
バス時間 = 厚生園前15時18分発京成佐倉駅行き(次は16時16分発です)

2) 時間許す方は旧佐倉順天堂にも足をのぼそう — 近くの史跡もどうぞ

- ①旧佐倉順天堂(徒歩10分 = 順天堂前から同じバスに乗れます) = 100円 17時まで
- (1)天保14年(1843)、佐倉藩主堀田正睦(まさよし = 老中首座)によって佐倉に招かれた蘭方医・佐藤泰然が開いた蘭方医学塾。現在の建物は安政5年(1858)建造。「西の長崎、東の佐倉」とうたわれ多くの医学者を送り出した。
- (2)昭和60年佐倉順天堂記念館として公開、近代医学の黎明期の様子を現在に伝えている。
- ②松林寺、土井利勝父母夫人の供養塔(徒歩5分 = 厚生園前バス停3分)
- ③京成佐倉駅まで徒歩およそ30分、旧街道散策も楽しい。
途中堀田家菩提寺甚大寺、おはやし館、佐倉美術館などを経由しながら旧成田街道の古い町並の散策もできます。

以上